

平成 28 年度
日本商工会議所

第143回

簿記検定試験

3 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

LEC東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド
(C) 2016 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。
有効期限 2016年6月12日/2016年11月19日



0 000212 162640

BL16264

第 143 回 解 答

第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	有 価 証 券	180,000	現 金	180,000
2	仕 入	203,000	前 払 金 買 掛 金 現 金	40,000 160,000 3,000
3	当 座 預 金 支 払 手 数 料	299,600 400	売 掛 金	300,000
4	備 品	560,000	当 座 預 金 未 払 金	260,000 300,000
5	所 得 税 預 り 金	94,000	現 金	94,000

仕訳 1 組につき、4 点

第 2 問 (10 点)

帳簿 日付	現金出納帳	当座預金 出 納 帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (仕入先元帳)	仕 入 帳	売 上 帳	受取手形 記 入 帳	支払手形 記 入 帳
	5	2	○	○			○		
	6	○	○	○			○	○	
	16	○							○
	27	○			○				
	31	○						○	

日付ごとに、2 点

第3問 (30点)

残高試算表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
4月30日	4月1日		4月1日	4月30日
325,000	550,000	現 金		
1,557,000	1,600,000	当 座 預 金		
650,000	300,000	受 取 手 形		
500,000	400,000	売 掛 金		
		貸 倒 引 当 金	30,000	30,000
400,000	400,000	繰 越 商 品		
80,000	160,000	前 払 金		
600,000	600,000	備 品		
		備品減価償却累計額	200,000	200,000
		支 払 手 形	200,000	350,000
		買 掛 金	300,000	350,000
		前 受 金	220,000	100,000
		所 得 税 預 り 金	30,000	40,000
		借 入 金	1,000,000	1,000,000
		資 本 金	2,000,000	2,000,000
		売 上	5,000,000	6,570,000
4,270,000	3,250,000	仕 入		
1,580,000	1,200,000	給 料		
65,000	50,000	発 送 費		
240,000	180,000	支 払 家 賃		
162,000	120,000	通 信 費		
190,000	150,000	水 道 光 熱 費		
10,000	10,000	支 払 利 息		
11,000	10,000	手 形 売 却 損		
10,640,000	8,980,000		8,980,000	10,640,000

得意先元帳(全て)

神奈川商店		千葉商店	
前月繰越	250,000	返 品	55,000
売り上げ	500,000	回収(当座振込)	(300,000)
		前月繰越	150,000
		売り上げ	210,000
		値 引 き	(5,000)
		回収(当座振込)	100,000
		回収(約手受取)	150,000

□ につき2点

第4問 (8点)

(ア)	買掛金	(イ)	40,000	(ウ)	仕入
(エ)	買掛金	(オ)	30,000	(カ)	300,000
(キ)	売 上	(ク)	300,000		

各1点

第 143 回 解 答

第 5 問 (32 点)

精 算 表

勘 定 科 目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	56,000						56,000	
現金過不足	3,000			3,000				
当座預金	349,000						349,000	
受取手形	76,000						76,000	
売掛金	114,000		20,000				134,000	
仮払金	250,000			250,000				
繰越商品	41,000		38,000	41,000			38,000	
貸付金	400,000						400,000	
建 物	1,800,000						1,800,000	
備 品	200,000		250,000				450,000	
土 地	1,360,000						1,360,000	
支払手形		74,000						74,000
買掛金		109,000						109,000
前受金		24,000		20,000				44,000
貸倒引当金		2,000		6,400				8,400
建物減価償却累計額		486,000		54,000				540,000
備品減価償却累計額		120,000		52,500				172,500
資 本 金		3,400,000						3,400,000
売 上		1,286,000				1,286,000		
仕 入	650,000			650,000				
給 料	168,000				168,000			
通 信 費	12,000		2,000		14,000			
消 耗 品 費	6,000			1,000	5,000			
保 険 料	16,000			4,000	12,000			
	5,501,000	5,501,000						
雑 (損)			1,000		1,000			
売上原価			41,000	38,000	653,000			
			650,000					
貸倒引当金繰入			6,400		6,400			
減価償却費			106,500		106,500			
消 耗 品			1,000				1,000	
(前払)保険料			4,000				4,000	
(未収)利息			2,000				2,000	
受取利息				2,000		2,000		
当期純(利益)					322,100			322,100
			1,121,900	1,121,900	1,288,000	1,288,000	4,670,000	4,670,000

□につき、3点。 □につき、2点。

【3級総評】

第3問以外は、基本から標準レベルの問題であり、努力が結果に結びつきやすい内容でした。ただし、第3問は、勘定の記入内容を推定する必要があり、出来・不出来に差が生じやすい内容でした。

簿記の学習では、仕訳、勘定記入、試算表作成、財務諸表作成が最重要論点ですが、日頃から、1年間の流れを意識しながら、仕訳・転記・集計をすることで、基本的な部分の理解をすることが重要です。

【解説】**第1問**

仕訳に関する問題です。勘定科目の指定があることに注意しましょう。

1. 株式の購入

株式を購入しているので、資産の増加として有価証券で処理します。

取得原価：@ ¥180 × 1,000 株 = ¥180,000

2. 仕入取引

商品の引渡しを受けているので、仕入を計上します。その際、当店負担の引取運賃は仕入原価に含めます。

3. 売掛金回収と振込手数料

掛代金の回収にあたり、得意先が金融機関に支払う振込手数料を当店が負担するために、掛代金から振込手数料を差引いた金額を振込んでもらっています。当店が負担する振込手数料は、支払手数料で処理します。

4. 備品の購入

業務で使用する目的で購入したコピー複合機は、備品に該当します。搬入設置費用を含めた取得原価で処理をします。なお、備品の購入代金のうち、翌月以降の支払いにした分は、未払金で処理します。

5. 所得税預り金の納付

納期の特例とは、毎月の給料から天引きする源泉所得税を半年ごとに半年分をまとめて納付できるという特例です。原則としては、毎月支払う給料から天引きした源泉所得税を翌月10日までに納付する仕組みになっています。本問では、給料の支払時に天引きした源泉所得税を現金で納付していることが把握できたかがポイントです。

第 143 回 解 説

第 2 問

補助簿への記入に関する問題です。補助簿には関連する取引のみを記入します。

取引内容を仕訳し、使用した勘定科目について補助簿があるかを考えます。また、商品売買取引は、基本的に商品有高帳へも記入します。ただし、売上値引きは商品有高帳には記入しません。

2日 商品を仕入れているため、仕入帳と商品有高帳に記入します。小切手の振出しにより当座預金が減少し、約束手形の振出しにより支払手形が増加しているため、当座預金出納帳と支払手形記入帳に記入します。

(借)	仕	入	500,000	(貸)	当	座	預	金	250,000	
						支	払	手	形	250,000

6日 商品を売上げているため、売上帳と商品有高帳に記入します。他店振出の約束手形の受取りにより受取手形が増加し、残額は掛としたので売掛金が増加します。よって、受取手形記入帳と売掛金元帳に記入します。また、発送費の支払いを現金で行っているため、現金出納帳に記入します。

(借)	受	取	手	形	300,000	(貸)	売	上	600,000
	売	掛	金	300,000		現	金	5,000	
	発	送	費	5,000					

16日 約束手形が決済され、支払手形が減少するため、支払手形記入帳に記入します。手形代金は当座預金から支払っており、当座預金が減少するため、当座預金出納帳に記入します。

(借)	支	払	手	形	300,000	(貸)	当	座	預	金	300,000
-----	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

27日 買掛金が決済され、買掛金が減少するので、買掛金元帳に記入します。掛代金は当座預金から支払っており、当座預金が減少するため、当座預金出納帳に記入します。

(借)	買	掛	金	400,000	(貸)	当	座	預	金	400,000
-----	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

31日 手形の割引をしたことで受取手形が減少するので、受取手形記入帳に記入します。割引料を差引いた手取額が当座預金に入金されており、当座預金が増加するので、当座預金出納帳に記入します。

(借)	当	座	預	金	299,500	(貸)	受	取	手	形	300,000
	手	形	売	却	損	500					

第 3 問

残高試算表を作成するとともに、得意先元帳を完成させる問題です。

基本的な解答手順としては、まず、問題資料として与えられた総勘定元帳の各勘定について、金額が不明となっている部分を相手勘定科目を手がかりにして推定した上で、残高を求めます。次に、問題資料に与えられていない勘定については、4 月中の取引について仕訳を考え、残高を集計します。なお、得意先元帳の空欄となっている金額については、総勘定元帳の各勘定において金額が不明となっている部分を推定する際に、一緒に考えると効率的です。

1. 総勘定元帳の金額推定

(1) 当座預金勘定 借方 3 行目

相手勘定科目が「受取手形」→ 受取手形勘定 貸方 2 行目より「299,000」

(2) 当座預金勘定 貸方 5 行目

相手勘定科目が「現金」→ 現金勘定 借方 2 行目より「200,000」

(3) 受取手形勘定 借方 3 行目および売掛金勘定 貸方 4 行目

相手勘定科目が「売掛金」→ 売掛金勘定 貸方 4 行目と同じ
→ 得意先元帳 千葉商店 貸方 3 行目より「150,000」

(4) 売掛金勘定 貸方 3 行目

相手勘定科目が「当座預金」→ 当座預金勘定 借方 4 行目より「400,000」

(5) 売掛金勘定 借方 2 行目

相手勘定科目が「売上」なので、掛売上げの合計金額が該当します。神奈川商店勘定の借方 2 行目より、神奈川商店に対する掛売上げは「500,000」と分かります。また、千葉商店勘定の借方 2 行目より、千葉商店に対する掛売上げは「210,000」と分かります。よって、掛売上げの合計は「710,000」と分かります。

(6) 支払手形勘定 借方 2 行目

相手勘定科目が「当座預金」→ 当座預金勘定 貸方 3 行目より「200,000」

(7) 買掛金勘定 借方 3 行目

相手勘定科目が「支払手形」→ 支払手形勘定 貸方 3 行目より「100,000」

2. 得意先元帳の金額推定

(1) 千葉商店勘定 貸方 1 行目

売上値引きの仕訳パターンは掛売上げの逆仕訳（反対仕訳）です。また、売上返品のパターンも掛売上げの逆仕訳（反対仕訳）です。

売掛金勘定の貸方 2 行目より、売上値引きと売上返品の合計が「60,000」と分かります。売上返品の金額は神奈川商店勘定の貸方 1 行目より「55,000」なので、売上値引きの金額は「5,000」と分かります。

(2) 神奈川商店勘定 貸方 2 行目

当座振込みによる売掛金の回収について、千葉商店分は千葉商店勘定の貸方 2 行目より「100,000」です。また、当座振込みによる売掛金の回収額総額（神奈川商店分＋千葉商店分）は、売掛金勘定の貸方 3 行目より「400,000」です。よって、当座振込みによる売掛金の回収について、神奈川商店分は「300,000」と分かります。

第 143 回 解 説

3. 平成 28 年 4 月中の取引

(1) 現金勘定

(借)	現	金	200,000	(貸)	当	座	預	金	200,000
(借)	仕	入	40,000	(貸)	現			金	40,000
(借)	発	送	費	15,000	(貸)	現		金	15,000
(借)	給	料	370,000	(貸)	現			金	370,000

(2) 当座預金勘定

(借)	当	座	預	金	300,000	(貸)	売		上	300,000		
(借)	当	座	預	金	299,000	(貸)	受	取	手	形	299,000	
(借)	当	座	預	金	400,000	(貸)	売	掛		金	400,000	
(借)	仕			入	200,000	(貸)	当	座	預	金	200,000	
(借)	支	払	手	形	200,000	(貸)	当	座	預	金	200,000	
(借)	買	掛		金	300,000	(貸)	当	座	預	金	300,000	
(借)	現			金	200,000	(貸)	当	座	預	金	200,000	
(借)	通	信		費	42,000	(貸)	当	座	預	金	42,000	
(借)	水	道	光	熱	費	40,000	(貸)	当	座	預	金	40,000
(借)	支	払	家	賃	60,000	(貸)	当	座	預	金	60,000	

(3) 受取手形勘定

(借)	受	取	手	形	500,000	(貸)	売		上	500,000		
(借)	受	取	手	形	150,000	(貸)	売	掛		金	150,000	
(借)	当	座	預	金	299,000	(貸)	受	取	手	形	299,000	
(借)	手	形	売	却	損	1,000	(貸)	受	取	手	形	1,000

(4) 売掛金勘定

(借)	売	掛		金	710,000	(貸)	売		上	710,000	
(借)	売			上	60,000	(貸)	売	掛		金	60,000
(借)	当	座	預	金	400,000	(貸)	売	掛		金	400,000
(借)	受	取	手	形	150,000	(貸)	売	掛		金	150,000

(5) 支払手形勘定

(借)	仕			入	250,000	(貸)	支	払	手	形	250,000
(借)	買	掛		金	100,000	(貸)	支	払	手	形	100,000
(借)	支	払	手	形	200,000	(貸)	当	座	預	金	200,000

(6) 買掛金勘定

(借)	仕	入	490,000	(貸)	買	掛	金	490,000		
(借)	買	掛	金	300,000	(貸)	当	座	預	金	300,000
(借)	買	掛	金	100,000	(貸)	支	払	手	形	100,000
(借)	買	掛	金	40,000	(貸)	仕		入		40,000

(7) 付記事項

(借)	仕	入	80,000	(貸)	前	払	金	80,000			
(借)	前	受	金	120,000	(貸)	売		上	120,000		
(借)	給	料	10,000	(貸)	所	得	税	預	り	金	10,000

第143回 解説

第4問

伝票会計の問題です。取引の仕訳を考え、問題資料の伝票において記入済みとなっている箇所を手がかりにして、記入する語句および金額を考えます。

(1) 仕入

取引を仕訳すると次のようになります。

(借)	仕	入	140,000	(貸)	現	金	40,000	
					買	掛	金	100,000

振替伝票の金額欄に「140,000」と記入済みのため、取引を擬制する方法で起票します。

振替伝票：	(借)	仕	入	140,000	(貸)	買	掛	金	140,000
出金伝票：	(借)	買	掛	金	40,000	(貸)	現	金	40,000

(2) 売上

取引を仕訳すると次のようになります。

(借)	現	金	30,000	(貸)	売	上	330,000
	売	掛	金	300,000			

入金伝票の科目欄に「売上」と記入済みのため、取引を分解する方法で起票します。

入金伝票：	(借)	現	金	30,000	(貸)	売	上	30,000	
振替伝票：	(借)	売	掛	金	300,000	(貸)	売	上	300,000

第 5 問

精算表の作成に関する問題です。
 まず決算整理事項等について仕訳を行います。

[決算日に判明した事項]

(1) 現金過不足

現金過不足 ¥3,000 のうち、通信費 ¥2,000 の記帳漏れが判明したので、通信費を計上します。また、残りの原因が判明していない分は、雑益または雑損で処理します。

(借)	通	信	費	2,000	(貸)	現	金	過	不	足	3,000
	雑		損	1,000							

(2) 訂正仕訳

売掛金回収として処理していた仕訳を、前受金の受取りの内容に訂正します。

(借)	売	掛	金	20,000	(貸)	前	受	金	20,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

(3) 仮払金の精算

仮払金を取消し、備品を計上します。

(借)	備	品	250,000	(貸)	仮	払	金	250,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

[決算整理事項]

(1) 商品の決算整理

期首商品棚卸高を繰越商品勘定から売上原価勘定へ、当期商品仕入高を仕入勘定から売上原価勘定へ振替えます。そして、期末商品棚卸高を売上原価勘定から繰越商品勘定へ振替えます。これにより、売上原価勘定の決算整理後残高は売上原価を表します。

(借)	売	上	原	価	41,000	(貸)	繰	越	商	品	41,000
(借)	売	上	原	価	650,000	(貸)	仕		入		650,000
(借)	繰	越	商	品	38,000	(貸)	売	上	原	価	38,000

(2) 貸倒引当金の設定

貸倒引当金勘定の残高が貸倒見積額になるように不足分を繰入れます。売掛金に関わる訂正仕訳により、売掛金が増加していることに注意が必要です。

(借)	貸	倒	引	当	金	繰	入	6,400	(貸)	貸	倒	引	当	金	6,400
-----	---	---	---	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	---	---	-------

受取手形：¥76,000

売掛金：¥114,000 + ¥20,000 = ¥134,000

貸倒見積額：(¥76,000 + ¥134,000) × 4% = ¥8,400

貸倒引当金繰入：¥8,400 - ¥2,000 = ¥6,400

(3) 減価償却

定額法による 1 年分の減価償却費は「(取得原価 - 残存価額) ÷ 耐用年数」です。また、当期に取得した備品については、10 月 1 日から使用開始しているのので、10 月から 12 月までの 3 ヶ月で月割計算します。

(借)	減	価	償	却	費	106,500	(貸)	建	物	減	価	償	却	累	計	額	54,000									
																	備	品	減	価	償	却	累	計	額	52,500

建物：(¥1,800,000 - ¥180,000) ÷ 30 年 = ¥54,000

備品：従来分；(¥200,000 - ¥0) ÷ 5 年 = ¥40,000

新規分；(¥250,000 - ¥0) ÷ 5 年 × $\frac{3\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}}$ = ¥12,500

第 143 回 解 説

(4) 消耗品

残高試算表欄に消耗品費の行があるので、期中は購入時に消耗品費（費用）で処理していることが分かります。よって、消耗品の未使用高を消耗品費勘定から消耗品勘定に振替えます。

(借)	消	耗	品	1,000	(貸)	消	耗	品	費	1,000
-----	---	---	---	-------	-----	---	---	---	---	-------

(5) 保険料の繰延べ

保険料のうち、翌期に対応する分を繰延べます。

(借)	前	払	保	険	料	4,000	(貸)	保	険	料	4,000
-----	---	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	-------

$$\text{前払保険料} : \text{¥}12,000 \times \frac{4\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}4,000$$

(6) 受取利息の見越し

8月1日から12月31日までの受取利息が発生しています。そこで、翌期に受取る利息のうち、当期に対応する分を見越し計上します。

(借)	未	収	利	息	2,000	(貸)	受	取	利	息	2,000
-----	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	---	-------

$$\text{未収利息} : \text{貸付金} \text{¥}400,000 \times \text{年利率} 1.2\% \times \frac{5\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}2,000$$

以上の決算整理仕訳を修正記入欄に記入し、修正記入欄の借方合計と貸方合計が一致することを確認します。

決算整理前残高に修正記入欄へ記入した金額を加減算（借方同士、貸方同士の金額は加算、借方と貸方の金額は減算）し、各勘定の決算整理後残高を算定します。そして、収益・費用の勘定の決算整理後残高は損益計算書欄に、資産・負債・純資産の勘定の決算整理後残高は貸借対照表欄に記入します。

損益計算書欄の借方合計（費用の合計）と貸方合計（収益の合計）の差額は、当期純利益（または当期純損失）を意味します。本問では当期純利益 ¥322,100 が算出されるため、これを損益計算書欄の借方に記入し、損益計算書欄の借方合計と貸方合計を一致させます。

最後に、当期純利益を純資産の増加分と考えて貸借対照表欄の貸方に記入し、貸借対照表欄の借方合計と貸方合計が一致することを確認します。

当期純利益の場合と当期純損失の場合では、損益計算書欄と貸借対照表欄の記入方法が異なります。以下の表を参照して確認しておきましょう。

	損益計算書欄	貸借対照表欄
当期純利益	借方	貸方
当期純損失	貸方	借方